

### シバセ工業

ストロー製造販売のシバセ工業（浅口市鴨方町六条院中）は、機械部品や医療機器の保護材などに使われる工業・医療用ストローに力を入れている。設備を増やして生産能力を1.5倍に高め、ほこりを防ぐクリーンルームも整備した。経済的、衛生的といった特長を生かし、さらに用途を広げていく。

(平田亜沙美)

# 工業・医療用ストロー強化



シバセ工業が増設したストローの製造ライン

## 設備増強、生産能力1.5倍 クリーンルームも整備

ストローは直径や長さ、厚さなどを自在に変えられ、先端を閉じたりラップ状に広げたりもできる。工業用では、化粧筆の保護キャップをはじめ、ばねや歯車といった部品の容器に広く利用されている。

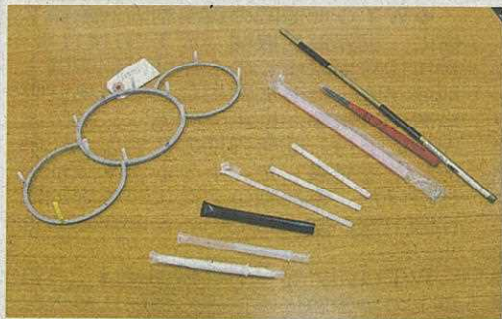
安価で使い捨てができるため、衛生面が重視される医療用の需要も拡大。注射針やメスなど鋭利な器具のカバー、呼吸を検査する際のパイプ、血液分析装置のスポートなどに用いられる。

好調な受注に対応して、今夏に製造設備を4ラインから6ラインに増強。医療用ストローの先端加工や検品を行うクリーンルームを新たに設けた。原材料のポリプロピレンと着色剤を混ぜる設備を導入し、効率化も図った。工場の改装と合わせた一連の投資額は1億円。

工業・医療用ストローは10年ほど前から本格的に受注をはじめ、現在の売り上げは全社の2割程度。一方、7割を占める飲料用ストローについては、世界的にプラスチック類の海洋汚染問題が指摘されている。今後は工業・医療用ストローと、独自に開発しているモーター自動検査装置にも力を注ぎ、3本柱で事業を伸ばしていく考え。

機田拓也社長は「他社が参入しにくいニッチ(隙間)な分野を開拓し、販路を広げたい」と話している。

シバセ工業は1926年創業、49年設立、資本金1千万円、売上高3億9500万円(2018年3月期)、従業員約50人(パート含む)。



筆のキャップや部品の保護材、手術道具のカバーなどで用途が広がっている